

ところが先生、数年のうちに修正六界説（1998）、唯六界説（2004）など新説をいくつも発表されるのでラインの変更を余儀なくされ、さらには将来のご展開も見据えて（常設展なので10年は保たせたい）一部を先取りしてみたり、施工中も現場でハンマー握ったお兄さんに協力をお願いしたりした結果、図4にみられるような折衷体系（七界ある）に仕上がった。いまだ五界説が誇ったほどの安定感のある定説がなく、毎年のように新説が提出される状況では、近い将来の展示更新も宿命と覚悟しているが、床面はLEDの配線を変えることであまり大きな工事を伴わずに、たとえばドメイン説や野崎説にも対応できる柔軟な設計である。

詳しい紹介は省くけれども、種数のバランスよりも門や綱を網羅することを優先させたので、結果として藻類が多数取り挙げられている：藍色植物門4種、ケルコゾア門1種、ユージェナ門1種、灰色植物門1種、紅色植物門16種、緑藻植物門31種、渦鞭毛植物門4種、クリプト植物門1種、ハプト植物門4種。不等毛植物門51種、計114種。前々号の本欄で紹介した日本館の「日本の海藻」展示、さらに47巻3号で紹介した「海中林の展示」などもあわせると、現在当館は世界でもっとも多く藻類を常設で展示している博物館なのではないかと考えている。

なお、地下から3階までの全フロアに対してではあるが、この地球館展示は2005年度のグッドデザイン賞とディスプレイデザイン

大賞（朝日新聞社賞）を受賞した。ガラスの美しさを活かした見事な設計をされた丹青社・乃村工藝社設計共同体の方々にはとても感謝している。また、標本・映像等を入手するにあたり、数多くの方々に協力いただいた。お名前を紹介するにはとてもスペースが足りないので詳細は展示室の謝辞パネルをご覧ください、この場も借りて御礼申し上げます。

引用文献

- Cavalier-Smith, T. 1991. The Evolution of Cells. In Osawa, S. & Honjo (eds.), Evolution of life, pp. 271–304. Springer-Verlag, Tokyo.
 Cavalier-Smith, T. 1998. A revised six-kingdom system of life. *Biol. Rev.* 73: 203–266.
 Cavalier-Smith, T. 2004. Only six kingdoms of life. *Proc. R. Soc. Lond. B* 271: 1251–1262.

(国立科学博物館)

【国立科学博物館（本館）】

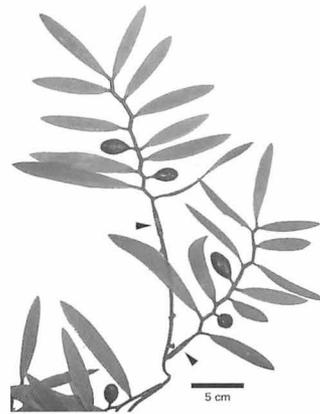
所在地：〒110-8718 東京都台東区上野公園7-20。Tel: 03-3822-0111（平日）・03-3822-0114（土・日・祝祭日）。Fax: 03-5894-9898。HP: <http://www.kahaku.go.jp/>。交通: JR 上野駅公園口から徒歩5分もしくは東京メトロ銀座線・日比谷線 上野駅から徒歩10分。開館時間: 9:00–17:00（入館は16:30まで）、ただし金曜日のみ9:00–20:00（入館は19:30まで）。休館日: 月曜日（日・月が祝日の場合は火曜日）、年末年始（12月28日～1月1日）。入館料: 一般・大学生 600円、小学生・中学生・高校生・満65歳以上・障害者とその介護者 無料（20名以上の団体入館者は300円で、20名につき引率者1名が無料）。



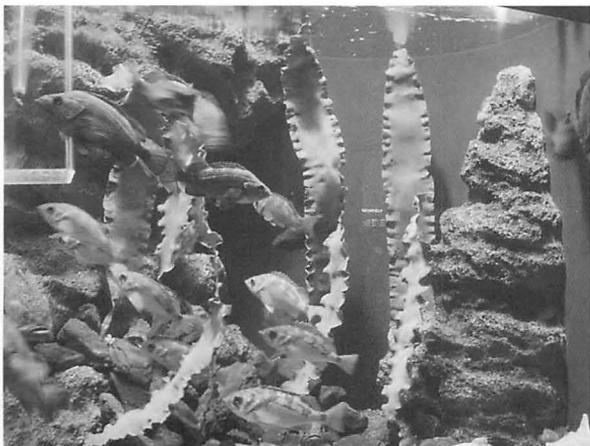
イミテーション海藻

海藻・海草の飼育は難しいので、これを上手に展示している水族館は、仲間うちから一目置かれる存在です。イルカのようなスター性はありませんが、波に揺れ、ゆさゆさとたなびいている海藻を眺めていると、気持ちもゆったりと穏やかになります。海藻・海草を主役にした水槽は少ないですが、脇役（「書割」といった方が近いでしょうか）として海藻が入っている水槽はたくさんあり、主役の生物が生息する環境の雰囲気作りのための一員あるいは、隠れたり乗っかったりする拠り所といった役割を担っています。それがイミテーションの海藻でも、魚たちはちょこんと乗ったり、卵を産みつけたりして、イミテーションに命を吹き込みます。概してどれも高価なのが難点ですが、とても便利な飼育係お助けグッズです。

(新江ノ島水族館 足立 文)



「人工海藻」（エーデプラン製）の先端部。長さ2 m程の主枝に2–5 cm間隔の突起があり、数十個の側枝を好みの位置に自由な向きで接続（▶）することで、好みの枝ぶりをデザインすることができる。1体1万2千円（税込み）。
 購入・問い合わせ先：
 (有) エーデプラン
 ☎ 048-485-4321
<http://www.aedplan.com>



「昆布」（株式会社安田製）



「人工海藻」（エーデプラン製）